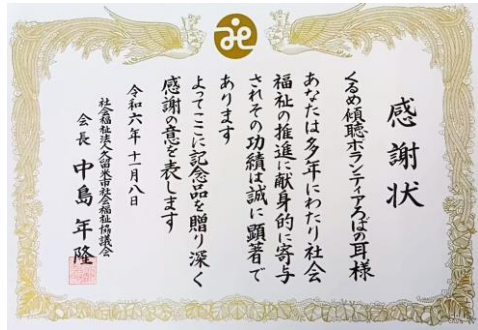


ろばの耳便り



第五十二回久留米市社会福祉大会にて

社会福祉協議会会長感謝状を受賞



令和六年十一月八日、石橋文化ホールで開催されました久留米社会福祉大会に参加しました。「地域共生社会を目指した地域づくり」と題しての鹿児島大学金子満教授の記念講演があり、その後、表彰式が行われました。社会福祉の向上や長年にわたる地域社会福祉ボランティア活動に対して「ろばの耳」も表彰を受けました。

「くるめ傾聴ボランティアろばの耳」は、えーるピア久留米生涯学習センター主催の「傾聴講座」を経て、二〇二一年四月に発足し、高齢者福祉施設での傾聴活動と在宅やサロンでの個人傾聴活動に取り組んでまいりました。コロナ禍となって二〇二〇年以降、ろばの耳も傾聴活動休止を止むなくされました。

その間、会員同士の繋がりを大切にし、ひとりひとり傾聴への思いをあなたためにつつ、これまでお世話になった施設のご意向を伺いながら、再開への日々を願っておりました。その様な中ではありましたが、二〇二一年ろばの耳は「十年の歩み」を発行することができました。現在は施設のご理解をいただき、昨年から今年にかけて、ようやく在宅傾聴、施設傾聴と少しずつ再開し傾聴活動が出来る様になりました。

こちらからも関係先のご指導ご支援をいただきながら、「傾聴ボランティアろばの耳」として皆さんの心に寄り添える傾聴活動を目指していきたいと思っています。また、社会福祉の向上に微力ながらも貢献できますよう、日々努力してまいります。更なるご尽力を賜ります様、ご支援ご協力の程よろしくお願ひ致します。

ろばの耳代表 小田静代

スタッフの笑顔に迎えられ感謝！ いよいよ全ての地区で 傾聴活動を再開！

現在、中央地域五施設、城島地域二施設、善導寺地域四施設と全ての地域で傾聴活動を再開しました。久しぶりに訪問した施設ではスタッフの方々が笑顔で迎えてくださりとても嬉しく思いました。四年間のブランクを感じることもなく傾聴に集中することができました。



中央では新規の高齢者施設での傾聴活動も開始

『人生で一番楽しかった頃』

久しぶりの施設訪問での傾聴で「あの頃が一番楽しかった」と嬉しそうに、繰り返される方のお話を聴きました。聴いている自分も、お話の中の時代を想像し、楽しかった頃に連れていかれるように感じました。

傾聴を終えて、私がこの方の年齢になった時、「人生で一番楽しかった」と私は何を話すだろうかと思像してしまいました。少し楽しみでもあります。



一人で介護しているあなたへ 少し心を軽くする小さな行動を

人の心の内は思うように伝わらないと毎日続く介護に独りで奮闘されている方もいらっしやるのではないのでしょうか。介護をしている相手から感謝の言葉があるかといえば、そうならない状況もあります。

例えば、認知症が進んで会話が成り立たない、自分のことを認識してもらえない、懸命に世話をしているのに拒絶されたり罵倒されたりしたら報われません。使用人のように扱われていると感じるかもしれません。他の家族やきょうだいが手伝ってくれないということもあるかもしれません。

孤独を感じ、イライラが募っても、それをどのように消化すればよいのかわからない。

この満たされない心に誰かが気づいてくれるだけで、一言ねぎらってくれるだけで頑張れるのに……。

横浜市立大学医学部看護学科講師
田辺有理子さんの言葉より



個人傾聴のご案内

ご自宅や傾聴サロンに「ろばの耳」の会員がお伺いし個人傾聴を行っています。どのようなお話でも、あなたの思いに寄り添って聴かせて頂きます

連絡先 ろばの耳事務局
☎〇九〇一九七九六―八三六一

五年ぶりのバス研修

二十六人の会員が参加



素敵な
さおり織り

障害福祉サービス (就労継続支援B型) 事業所ステツプを訪問

令和六年六月十四日

この施設は久留米市田主丸町竹野にあり、昨年の災害で被害に遭われたそうですが頑張って復興を遂げられていました。

ここは障害のある人の働きの場として、温泉・レストラン・ベーカーリー・織物等の生産活動を展開してあります。

障害のある方が開店準備や受付、案内、接客や調理などに就労されており、住み慣れた地域で生活することを目標にして居られるそうです。

私達はレストランで職員の方々の暖かい接客を受け、美味しい食事を楽しみました。

その後、月例会を行いパン工房で作られたパンをたくさん購入して帰りました。

そして、午後からは紅乙女、資生堂工場見学と、盛り沢山の研修になりました。

いいお天気に恵まれた あおぞら月例会

会員さんがそれぞれ持ちよって勉強しています。平和って・・・



桜紅葉の下で!

ラジオ体操第一はじめ～
タンタンタタン

『じんわり』と感じ入る

傾聴では、『共感』が重視されています。しかし、『共感』というものが正しく理解されていないように感じています。

共感とは「相手の気持ちを相手と同じか、それ以上に深く理解し感じること」であり、決して「相手と同じ結論に至る」同感である必要はないということです。同感とは「私もそう思います」ということであり、共感とは「あなたはそう思うのですね」ということです。

共感とは話し手の感じ方や考え方を理解し、「そうだったのですか」と感じ入ることなのです。その際に、可能な限り持つてほしい姿勢は「理解する」よりは「感じる」こと。

「感じる」こと以上に「感じ入ること」

つまり、思考での理解だけでなく、聴き手の内面で「じんわり」と、もしくは「じんわり」と心が動くことが大切です。

そのためには、「相手になりきる」姿勢も重要です。「話手の不平不満は理解しがたいけれど、それほどやりきれない思いを抱えていらしたのかと思うと、話し手の方が努力してこられたことを思える」と少しだけでもいいので、『じんわり』感じ入ってほしいのです。

『すごい傾聴』 小倉広より抜粋

くるめ傾聴ボランティアるばの耳会員募集

特別な資格は要りません。基本的な態度と姿勢、一通りの基礎知識を身につければ、どなたでも活動できます。るばの耳の「傾聴活動」は、日常生活で「人の話を聴く」ことにも生かされ、笑顔で過ごせるようになります。

連絡先 るばの耳事務局

☎〇九〇九七九六八三六一